

こには河川が流れ、湖沼が散在するなど、複雑な形をなしてゐる。この複雑な陸地の形は地球の内部的な作用と、水・大気・生物等による外部的な作用とによつてつくられたものである。さうしてこれらの地形がそれ〴〵、人間の生活に及ぶ影響は極めて廣く且つ大きいのである。

(一) 山 地

山地は陸地の高まつた部分で、地表面の傾斜が一般に大きい、その規模の小さな丘陵は概ね傾斜が緩やかである。山地は普通、孤立せず、細長く連なつて山脈をなしてゐる。

山地には一般に森林が茂り、林業が行なはれるが、耕作に不便で、交通も妨げられるので、鑛山・温泉等のある特別なところを除くと、多くの人が住むのは困難である。

が、山陰の大山のやうな鐘狀を呈するものや、四國の屋島のやうな台狀のものなどいろいろあり、又箱根山・阿蘇山などのやうな二重式火山もある。

火山はその活動に當つて種々の物質を噴出して、しばしば附近の耕地や聚落を埋没するばかりでなく、人畜の死傷を生ずる場合も少くないが、又一方、その優美な山容は、各地の風景に特有の美觀を與へてゐる。わが國の國立公園の多くが、火山を中心とする地域であるのはこのためである。

火山は一般に脈狀に分布してゐて、火山帯をつくつてゐる。これら火山帯は、概ね大洋の周邊にあつて、太平洋を繞る火山帯は特に有名である。わが國が火山に富むのは、その一部に當つてゐるからである。

わが國の主な火山帯には、日本列島の主軸に沿つて走る、千島・那須・鳥海・白山・阿蘇・霧島等の火山

北米のロッキー、南米のアンデスなどは、世界的な大山脈で、數千メートルの高峯が連なつてゐて、高峻な山容をあらはしてゐる。廣く世界の大山脈を見ると、大陸の内部には比較的少く、大陸の周邊部又はその前面に横たはる島にあるものが多い。

わが國は「山の國」と呼ばれるほど山地の多い國である。これはアジア大陸東方海上に横たはる大山脈地帯の一部に當つてゐるからである。しかも國土の狭い割合に高峻な山脈が多い。奥羽・赤石・木曾・飛騨・紀伊・中國等の諸山脈、及び四國山脈・九州山脈・蝦夷山脈等は、それ〴〵わが國の主な島々に於ける代表的山脈である。しかし、これらの山脈中にある高峯も、三千メートル以上に達するものはごく限られてゐて、赤石・飛騨の兩山脈に見られるのみである。

火山は特殊な成因に基づく山で、地殻の弱いところ

富士火山帯の主峯である富士山は、三七七六メートルの高さをもつ、わが國第一の高峯であるのみでなく、その秀麗なすがたをもつて世界的に知られた名山である。

地熱によつて温められた地下水が地上に湧き出るのが温泉で、主に火山活動の餘勢に伴ふものである。随つて温泉は火山地方に多く分布してゐる。わが國が温泉に富むのも亦これがためである。温泉は皆多少の鑛物質を含んでゐるもので、その泉質によつて硫黄泉・鹽類泉・炭酸泉・酸性泉・單純泉等の區別がある。これらは各成分によつて、療養上種々の效能がある。

地震も地殻の弱いところに發生するものであるから、地震帯も亦、概ね火山帯に沿つて分布する。世界で最も著名な地震帯は、太平洋の周邊と、地中海から印度方面に至る地方とである。わが國をしばしば大地

震が襲ふのはそれがためで、わが國は世界で有名な地震國である。近年わが國に起つた大地震のうち、最も著しいのは、明治二十四年の濃美大地震と、大正十二年の關東大地震とである。特に關東大地震は、人口の最も密な地方に起り、且つ大火災を伴つたので、その被害が甚だしかった。

(二) 高原

高い所にあつて、廣い平らな面を有する土地が高原である。各大陸には規模の大きな高原がある。アジア大陸のチベット高原・蒙古高原・デカン高原・アラビヤ高原、アフリカ大陸のアビシニア高原、南米大陸のブラジル高原などは最も有名である。

わが國の高原には、飛騨高原・丹波高原等があるが、大陸のものに比べると、もちろんその規模はごく小さいものである。

的容易であるが、特に熱帯地方にある高原は、氣候がよいので、その地方の平地よりも多くの人口を收容してゐる。中米・南米にはこの例が少くない。

(三) 平野

土地の低い平らな廣いところが平野で、周囲が山地で圍まれた場合を盆地といふ。氣候の悪いところを除くと、平野は一般に農業を営むのに適してをり、交通も便利であるから、他の産業も興り、人類活動の最も盛んに行なはれるところである。

平野は主に大河の流域や海岸地方に發達してゐるが、又大陸の内部にも見られる。河川が山地から平野に出るところには、扇狀地ができ、時には河岸に段丘、河口に三角洲をつくる。又海岸に沿つて砂丘の發達した平野もあり、台地と低地のまじつた平野もある。平野の中に見られるこれら小規模の地形の變化

世界的の大平野には、アジアに於ける支那・滿洲・印度・メソポタミア・西シベリヤの各平野、ヨーロッパに於ける東部から西部に亙る平野、北米の中央平野、南米の中央平野などがある。これらの大平野のうち、まだよく利用されてゐないのがあるのは、主に氣候の悪いためであつて、温帯に於ける平野は、殆ど例外なく開發が進んでゐる。

わが國には平野にも廣大なものはないが、關東平野・越後平野・濃尾平野・大阪平野・筑紫平野・石狩平野等は、國內では廣い平野で、随つていづれも重要な地域となつてゐる。

(四) 河川

河川は大抵山地から流れ出し、たくさん支流を合はせて次第に水量を増し、遂に多くは海に注ぐ。山地の谷を流れる部分では急流をなし、時には瀧をつくるが、下流に行くに従つて、流れが次第に緩やかとな

り、上流から運搬して來た土砂を流路の附近に堆積して、扇狀地や三角洲をつくる。

河川は交通・灌溉・水力の利用などの便を興へ、陸地の内部に對して血管の如き作用をなすので、その沿岸は一般によく開け、位置の優れたところには、しばしば繁華な都市が發達する。

アジアのオビ川・エニセイ川・揚子江・黒龍江・黄河・インダス川・ガンジス川、ヨーロッパのボルガ川・ドナウ川・ライン川、アフリカのナイル川・コンゴ川、北米のミシシッピ川、セントローレンス川、南米のアマゾン川・エブラタ川等は、いづれも世界的な大河である。これらのうち揚子江・ドナウ川・ライン川・ミシシッピ川・セントローレンス川等は、交通上の價值が特に大きい。

わが國の川は、地勢の關係上、一般に短く且つ流れが急であるから、交通の便は少いが、雨の多いと相

俟つて、水力の發電には頗る適してゐる。信濃川・木曾川・富士川・黒部川・神通川・庄川等は、水力發電の源として最もよく利用されてゐる川である。

(五) 湖 沼

陸地の廣くほとんどところに水をたたへたものが湖沼である。水の性質によつて淡水湖と鹹水湖との別があり、成因によつて火山湖・河跡湖・潟湖等、多くの種類がある。

湖沼は用水を供給し、水力の源泉ともなり、交通の便を與へ、魚類を繁殖せしめ、又氣候を緩和し、更に風景をよくする。山間の湖を中心とした保養遊覽地はわが國に多いが、これは世界の文明國に共通的にみられるものである。

世界的に著名な湖としては、アジアの裏海・死海・バイカル湖、ヨーロッパのジュネーブ湖、アフリカのビクトリア湖、北米のスペリオル・ヒューロン・ミシ

ガン等の五大湖などが挙げられ、わが國では最も大きな琵琶湖が特にあらはれてゐる。

(六) 海 岸

陸地と海洋の相接するところである海岸は、單調な線をなすものもあるが、一般に出入の多い屈曲した線をなしてゐる。陸地の突出してゐる部分としては、半島・岬・砂嘴等があり、海洋が陸地へ入りこんでゐるものに灣や入江などがある。

海岸線の出入の度合は陸地の氣候に影響を與へ、その小規模の灣入は港灣として利用される便がある。六大陸中海岸線の出入の最も多いのはヨーロッパで、アフリカが最も少い。兩大陸の文化の發達に甚だしい相違を生ぜしめた理由の一つとして、この海岸線もちがひを擧げることができ。日本列島やイギリス諸島は、面積の割合に海岸線が長い。

海岸は又、或は砂濱をなし、或は磯濱をなし、或は

斷崖絶壁をなしてゐる。更に遠淺の海岸や岸から急に深い海岸もある。これらの狀態も海岸に住む人類の生活と種々の關係をもつてゐる。

三 海 洋

海洋は海水をたたえた地球表面の窪地で、水面からの深さに深淺があり、海水には鹽分・水温の諸性質や海流・潮汐・波浪等の諸運動がある。これらはすべて人類の生活と密接な關係のあるものである。

(一) 海底の形狀

海底の地形は、陸地の地形に比べると遙かに單調で、小さい凹凸が少く、大區域に亘つて緩やかに起伏する特徴がある。海岸から深さ二百メートルまでは一般に傾斜が緩やかで、陸地の續きと見られてゐる。これを陸棚と呼び、水産動植物の棲息が豊富なので、好漁場となつてゐる。陸棚を越すと、海は急に深くなつ

て、二千メートル以上の深海となり、大洋の海底には四千メートル以上の深所が廣く横たはつてゐる。更にこれより深いところは細長い溝狀をなし、海溝といはれてゐる。海洋の平均の深さは約三千七百メートルで、陸地の平均の高さ約七百メートルの五倍餘に當つてゐる。

陸棚は陸地を取り巻いてゐるが、その幅はところによつてちがひ、アジアの黄海・東支那海、ヨーロッパの北海等は、殆ど陸棚に相當する部分である。海溝は大洋の中央には少く、かへつてその周邊部に多く、大陸の大山脈や列島の前面に、これに沿つて近く横たはつてゐる。世界的な海溝であるフィリピン海溝・日本海溝・マリアナ海溝等は、その適例である。フィリピン海溝には、一〇七九三メートルに達する世界の最深所があつて、陸地の最高峯エベレストの八八二二メートルよりもその差がすつと大きい。

(二) 海水の性質

海水は平均三・五パーセントの鹽分えんぶんを含んでゐて、淡水よりも比重が大きい。この鹽分を利用して製鹽が行はれるのである。

海水の温度は一般に表面が高く、深さを増すに従つて低くなつてゐるが、深海では零度内外で殆ど一樣である。表面の水温は、太陽熱のために熱帯地方が高くこれを離れるに従つて次第に低くなり、兩極地方では年中氷結してゐるところさへある。しかし、大氣の温度のやうな季節的な變化はあまり大きくない。海に近い大陸や島の氣候が緩和されるのはこのためである。

(三) 海水の運動

海水が一定の方向に絶えず流れてゐるものが海流で、その温度によつて暖流と寒流とに分かれる。暖流はすべて赤道附近に起り、赤道海流となつて西に向かひ、大陸に突きあたつて南北の二派に分れ、次第に方

向を變じて、遂に各、一大環流をつくつてゐる。メキシコ灣流や日本海流はその代表である。寒流は兩極地方に起つて、赤道の方へ向かふものである。ラブラドル海流・千島海流はこの例である。

海流はそれに近い陸地の氣候に影響を及すのみでなく、水産動植物の分布を決定し、又暖流と寒流との會合する箇所は好漁場となり、なほ海上交通にも深い關係をもつてゐる。

メキシコ灣流とラブラドル海流とは、北大西洋に於ける主要な海流である。メキシコ灣流は北赤道海流から出て、メキシコ灣岸を洗ひ、大西洋を横斷してヨーロッパの北西岸に沿つて流れ、遂に北極海に達するもので、遙か北方に位するヨーロッパの北西岸にまで、不凍港をつくつてゐる。ラブラドル海流は北極海に起り、北米の北東岸に沿つて南流し、ニューファンドランド島の南方に至り、メキシコ灣流と會ひ、そこに世

界的な漁場を育ててゐるものである。

日本海流と千島海流とは、わが國の近海に於ける主要な海流である。日本海流は一名黒潮くろしほと呼ばれる暖流で、北太平洋に於ける最大の海流である。フィリピン群島の東方から北に向かひ、臺灣島及び琉球列島の海岸を洗ひ、九州・四國・本州の太平洋岸に沿つて流れ、大吠崎おほいさきの東方で、陸地から次第に離れて東に向かひ、北太平洋を横ぎつて、北米の西岸に達するものである。琉球列島の近海で、この海流から分れる對馬海流は、九州の西を通り、對馬海峽を過ぎて日本海に入り、本州・北海道本島の西岸を洗ひ、北上して樺太島の西海岸に達し、その一部は津輕海峽及び宗谷海峽を通過して太平洋及びオホーツク海に進出してゐる。千島海流は一名親潮おやしほと呼ばれる寒流で、ベーリング海から起り、カムチャツカ半島・千島列島の東方を南西流し、更に北海道本島に沿つて南下し、本州北部の東岸

を洗ふものである。

これらの暖流及び寒流はわが國の氣候、ひいては農業に大きな影響を與へ、又わが國でとれる水産動植物の分布をきめてゐる。本州北東部及び北海道本島の太平洋沿岸が日本海沿岸に比し、同緯度のところでは氣温が低いのはその一例である。千島海流が夏、優勢な年は、北海道及び本州北東部の東部一帯の氣温が低下し、このためこの地方の米作に悪い影響があることも亦その例である。日本海流がわが國の南方及び東方を力強く流れてゐるのに、冬の季節風が北西風又は北風であるため、わが國の冬の氣候を緩和することが少いのである。

海面は一日に二回の昇降しやうかうがあつて、海岸では上げ汐と引き汐とが生ずる。これを潮汐しほといひ、これに伴なつて、海峽や瀬戸や、浅い海では潮流と呼ばれる海水の流れがある。潮汐は月及び太陽の引力によつて生ず

るものであるが、主として月の引力によるものである。潮汐の干満の差は、海陸の分布、海岸の形状、海底の深淺等によつて各地一様ではない。その差が殊に大きいのは北米東海岸のフアンジー灣で、二十メートルを超えてゐる。わが國では九州の有明海が最大で、約六メートルに達し、日本海沿岸が最小で、僅かに〇・三メートルに過ぎない。潮流の速いところとしては、鳴門海峡が最も有名で、秒速五・五メートルに達する。潮汐はこのやうな性質をもつてゐるので、航海・碇泊等の海上交通に影響し、又干潟に於ける魚介類の養殖や採取等の水産業にも關係がある。

風のために水面に高低を生ずるのを波浪といふ。風の強い海洋では波浪も高く、平常静かな海洋でも強風の吹く場合は波浪が高くなる。海洋が永らく交通を妨害してゐたのは主に波浪のためである。地震や暴風によつて、大きな波浪が急激に海岸を襲ふ津浪は、沿岸

地帯の住民に多大の被害を與へることがある。東部太平洋岸の三陸地方は、その被害地として最も著名である。

四 氣 候

長期間に亙る大氣の平均的な状況を氣候といひ、これを組み立てるものとして氣温・風・雨等がある。これらは地表の場所によつて大きな相違がある。人類の生活は直接にも間接にも、氣候によつて大きな影響を受けるものである。

(一) 氣 温

氣温は大氣の温度である。これは赤道地方に高く、兩極に向かふに従つて低くなる。又地表に近いところは高く、上層に至るに従つて低くなる。しかし地形、水陸の分布、海流・風向等の影響を受けることが多いので、緯度及び海拔高度を同じくする土地でも、氣温

は必ずしも同一ではない。各地の氣温を同時に計り、これを海面上の氣温に更正し、等しい温度のところを

連ねて畫いた線を等温線といふが、この等温線は必ずしも緯度とは平行せず、著しく屈曲するものである。

ヨーロッパの北西部に於ける冬の等温線の如きは緯度と直交し、むしろ經度に平行するほどである。これはこの地方が、同緯度の他の地方より遙かに溫暖であることを示すものである。

氣温の相違に基づいて、地表を熱帯・温帯・寒帯の三氣候帯に分つことがある。これには緯度によるものと年平均氣温によるものがある。前者は緯度二十三度半と六十六度半によつて區別するもので、規則的であり、後者は年平均氣温二十度と零度との等温線を以て境界とするもので、不規則な帶狀を示すものである。又海洋性氣候・大陸性氣候の區別も、氣温に基づく氣候の區分である。海洋性氣候は、季節による氣温

の差のあまり大きくない氣候をいひ、大陸性氣候はその差の極めて甚だしいものをいふ。

世界で最も暑い地方は、サハラ沙漠からアラビヤ高原・イラン高原に亙る一帯の地方で、最も寒いのは、南極附近及びシベリヤの北東部である。

わが國は全域温帯に屬し、又全くの島國であるから海洋性氣候をもつ國である。しかしアジア大陸に近いので、その大陸性氣候の影響を受け、他の温帯に於ける海洋性氣候の地方に比べると、寒暑の季節的な相違がやゝ大きい。

氣温は生物の生育に關係し、又人類の健康や仕事の能率に影響する。世界の文化地帯の殆ど全部が温帯にあることは、温帯の氣候が人類の生活に最も適してゐるからである。

(二) 風

風は大氣の運動で、大氣の壓力即ち氣壓の高い方

と低い方へ吹くものである。風には海風・陸風・季節風・貿易風・偏西風・颶風・颶風等の多くの種類がある。

海風・陸風は海岸地方に普通吹く風である。陸地は海洋に比して、熱の吸収及び放散が速いから、好天氣の日は、日中は陸の方が氣温が高く、氣壓は低くなるので、海から陸への風即ち海風が吹く。夜間は海の方が氣温が高く、氣壓は低いので、陸から海への風即ち陸風が吹く。

この海風・陸風の起るのと同じ理によつて、夏は大洋から大陸へ向かつて風が吹き、冬は反對に大陸から大洋へ向かつて風が吹く。これが季節風である。季節風の最も著しいところは、アジア大陸の東部から南部に亙る地方で、殊に印度に於て最も盛んである。

わが國はこのアジアの季節風帯に位するので、冬は北西風又は北風がアジア大陸内部から吹き送られ、夏

温暖にしてゐる。ヨーロッパの進んだ文化は、自然的にはメキシコ灣流と、この偏西風とによつてはぐくまれたとさへいはれてゐる。

颶風と颶風とは、共に一時的に吹く暴風である。わが國を襲ふ颶風は二百十日頃に最も多く、猛烈な暴風雨となつて、米作や交通その他に大きな損害を與へる。その發生地はミクロネシア方面の熱帶地方で、初めは西に向かつてゐるが、次第に方向を轉じ、臺灣附近から北東に進み、わが國に襲來するのである。

颶風は、冬シベリヤ及び蒙古附近に發生し、往々日本海を渡つてわが國へ來り、北海道本島や本州の日本海沿岸に大吹雪を起すことがある。

(三) 雨

雨は大氣中の水蒸氣が凝結して地表に降るもので、雪・霰・雹等はその變形したものである。これらの地表に降つたものの總量を、雨量又は降水量といふ。雨

は南東風又は南風が太平洋から吹いてくる。日本海沿岸に冬の雪の多く降るのは、主に冬の季節風の影響である。貿易風は南北の回歸線附近から赤道に向かつて年中吹く風で、北半球では、北東貿易風となり、南半球では、南東貿易風となつてゐる。共に太平洋・大西洋によく發達してゐる。帆船時代に於ける世界貿易がこの風を利用したので、その名を得たのである。かのコロンブスが新大陸を發見した時は、大西洋上の北東貿易風によつて航行したのである。

偏西風は南北兩半球共、緯度約三十五度から六十五度に亙る間に、年中吹いてゐる西寄りの風である。南半球では、この間に陸地が少いので、廣い洋上を規則的に吹いてゐるが、北半球では、陸地に妨げられない北大西洋上の偏西風が、メキシコ灣流によつて暖められた大氣を、ヨーロッパの西部地方に吹きこむので、この地方の氣候を同緯度の他の地方に比べて、遙かに

量は地勢・森林・海流・氣温・風等の影響を受けて、各地一様でない。又同一の地でも、季節によつて相違がある。

世界で雨量の最も多い地方は、印度の東部からマレー諸島に至る間、アフリカのギネヤ灣沿岸、南米のアマゾン川流域等で、年雨量二千ミリ以上に達し、すべて熱帶地方にある。これに對し、雨量の最も少い地方は、北半球では、アフリカ北部からアラビヤ半島を経て蒙古高原に至る間、北米の大盆地、南半球では、オーストラリアの西半部、アフリカの南西部、南米太平洋沿岸の中央部などで、緯度ではほと二十度と四十度との間にある。年雨量は二百五十ミリ以下で、その多くは沙漠をなしてゐる。寒帶地方も一般に雨量は極めて少い。

わが國は世界的に雨量の多い國である。年雨量が一干ミリに達しないところは、北海道本島の東半部を除

昭和二十一年四月二十二日 印刷即出
昭和二十一年五月十五日 印刷發行
【昭和二十一年四月二十二日印刷（第一分冊）】

高等地理下 第三分冊（第一分冊）

定價 金拾圓

著作權所有 著作者 文 部 省

發行所

東京都王子區堀船町一丁目八五七番地
印刷發行 東京書籍株式會社

代表者 井上 源 之 丞

Approved by Ministry
of Education
(Date Apr. 22, 1946)

東京都王子區堀船町一丁目八五七番地
印刷所 東京書籍株式會社

發行所 東京都王子區堀船町一丁目八五七番地
東京書籍株式會社

ところは概して農業よりも牧畜業に適してゐる。

(四) 氣候區

世界の各地はそれ／＼特有の氣候をもつてゐるが、その似通つた區域を一まとめにして氣候區を設けることができる。世界を大きく氣候區に分けると、熱帶雨林氣候・熱帶草原氣候・亞熱帶乾燥氣候・溫帶乾燥氣候・地中海性氣候・溫帶季節風氣候・海洋性西海岸氣候・多濕大陸性氣候・亞極地氣候・凍土帶氣候・氷原氣候の十一氣候區となる。これらの氣候區は、主として氣温と雨とによつて區別されたもので、植物の分布と密接な關係があり、人類の生活も、同一氣候區のうちでは相似たものがある。

わが國は世界的な氣候區の分類では、溫帶季節風氣候區に屬するのであるが、更に國內を細かく分けると、北海道の東部と西部、本州北東部の東部と西部、東海・中央高地、北陸及び山陰、瀬戸内、南海及び南

くと、部分的にあるに過ぎず、紀伊半島の南東部山地や四國の南部山地では、三千ミリ以上に達するところさへある。わが國の年雨量の分布を概略的に見ると、本州南部・四國南部・九州南部の太平洋沿岸地方と、本州の日本海沿岸地方とに雨量が多く、兩地方の中間地帯である瀬戸内地方や中央高地の諸盆地は一般に少い。太平洋沿岸地方の雨は、主として夏の季節風がもたらすもので、日本海沿岸地方では冬の季節風のもたらす雪が主である。すなはち兩地方は雨季を異にするのである。北陸地方は特に雪の多いところで、世界でもその比を見ないほどである。この外本州・四國・九州には六、七月の頃、梅雨と呼ばれる雨季がある。この頃、田植を行なふ地方が多いので、梅雨はわが國の米作にとつて、重要な關係がある。

雨量に基づく氣候の區分に、濕潤氣候と乾燥氣候とがある。濕潤氣候のところは農業に適し、乾燥氣候の

九州・北九州の十氣候區となる。

五 生 物

生物は陸上に棲むものと、水中に棲むものとによつて、その種類が非常に異なつてゐる。又陸上に棲むものは、氣候・地勢等によつて、水中に棲むものは、水の性質・深淺等によつて、その生存地域の限られる場合が極めて多い。

文化の發展に伴なつて、生物はその固有の地域から他の地域へ移動したものが少くない。即ち一方に於いては、牛・馬・羊・豚・稻・麥・綿・果樹・蔬菜等、人類の生活に有用な動植物は、科學の進歩、交通の發達によつて、次第にその分布範圍をひろめた。現在の南米・北米及びオーストラリヤに於ける有用動植物の多くは、ヨーロッパから移されたものであり、玉蜀黍・馬鈴薯・甘藷・煙草等は、これと反對に新大陸から舊

大陸へ移されたものである。しかし、他方に於いて、狼・獅子・虎・熊等のやうな動物は、人類に捕殺せられ、或はその棲息地を奪はれて、次第にその數を減じ、或はその生存地域を縮めてゐる。

(一) 植 物

植物の分布は、氣候の影響を受けることが最も著しいものである。

熱帶地方は沙漠地方を除くと、高温多雨なところであるから、概して植物の種類が頗る多く、且つその生育も甚だ旺盛である。殊にアジアの南東部地方、アフリカの中部地方、南米のアマゾン川の流域地方等には、通過の困難な原始林が多い。しかし、一般に交通の便が悪いので、現在にはあまり利用されてゐない。熱帶地方に於ける有用植物には、ゴム・椰子・チーク・マホガニー等の樹木があり、又所々に、甘蔗・コーヒ・綿・稻等の農作物が栽培せられ、バナナ・

パイナップル等の果樹も多い。

溫帶地方は概して有用植物の主産地となつてゐて、比較的溫暖な地方には、松・杉・檜等の建築用材に適する森林があり、又麥・稻・綿・茶・桑・果樹等の農作物の栽培が盛んである。亞寒帶地方にはとど松・えぞ松・から松等の落葉樹が繁つてゐて、製紙の原料を多量に供給する。溫帶地方の乾燥氣候のところは、乾燥季に不毛の地となり、降雨季には、綠野に變ずる。蒙古・中央アジア・南米南部の草原地方はその例である。

寒帶地方は一般に植物の種類が甚だしく、その發育も亦良好でない。北極海沿岸のシベリヤ及びカナダ等の凍土帶では、夏季僅かに蘚苔類・地衣類が生ずるばかりである。

(二) 動 物

動物は又氣候の影響を受けて、その分布が左右される。熱帶地方特有の動物としては、象・犀・河馬・ジ

ラフ・獅子等、溫帶地方には牛・馬・羊・豚等の有用家畜があり、また寒帶地方には馴鹿・北極熊・ペンギン鳥等が棲んでゐる。しかし海洋・山地或は食物等のために、その棲息地がおのづから限られることがあつて、必ずしも同一氣候のところに同じ動物が棲んでゐるものではない。アジアの虎・やく・孔雀、アフリカの河馬・ジラフ・獅子・綿馬・駝鳥、南米のコンドル・リヤマ・アルバカ、オーストラリヤのカンガルー・エミュー等は、主としてそれらの大陸固有の動物である。

魚族の種類は、海水の温度に多く左右され、寒流に棲む寒海性の魚族と、暖流に棲む暖海性のものとに分れる。鯨・鯊・鮭・鰻等は寒海性魚族の代表であり、鯉・鮪・鰯・鰱等は暖海性魚族の代表である。

(三) わが國の生物

わが國は溫帶に位するので、動物・植物共に、溫帶區

有のものをもつてゐる。しかし北海道から九州に至る間、相當に氣候の變化があり、又地勢も複雑であるから動植物の種類は甚だ多い。北海道には亞寒帯性のとど松・えぞ松・から松等の森林が多く、本州・四國・九州には松・杉・檜等の森林がよく繁茂してゐる。動物では熊は北海道特有のもので、狼は自然的には津輕海峡以南にのみ棲んでゐる。

六 産 業

産業には農業・牧畜業・林業・水産業・鑛業・工業等の各種の生産業と、これらによつて生産された物品の交換を行なふ商業とがある。これらの産業の多くは、位置・地勢・地味・氣候・海洋・天産物及び住民の素質等の地域的な相違により、世界各地でそれと異なつた趣を呈してゐる。各國は各々その國民の生活を豊かにするため、國內の自然條件に對應して、産業

の振興に力を注いでゐるから、勢ひ産業の國家的特色も亦著しいものがある。

(一) 農 業

農業は植物を栽培して、人類に食糧と工業原料とを供給するもので、世界的に最も廣く行なはれてゐる産業である。氣候・地味・地勢・人口密度・文化・交通等の影響によつて、作物の種類・品質及び收穫の量並びに耕作法に、それと地域的な相違が見られる。特に氣候の影響を受けることが大きいので、熱帯・溫帯に應じて、各々特有の農作物があり、又雨量の多少にも深い關係がある。それによつて種類や品種の別が生じ、雨量のごく少い地方では農業は行なはれなくなる。地勢との關係では、平野に最も盛んで、丘陵地がこれに次ぎ、山地は一般に最も不利である。

人口の密な地方では集約農業が發達し、稀薄なところでは多く粗放農業となり、又文化の高い地方では科

學的な農業が營なまれるのに反して、文化の低い地方では、昔ながらの原始的な農耕を續けてゐる。

米 米は小麥と共に、人類の二大主要食糧となつてゐる。高温多濕の氣候に適し、世界總生産高の大部分は、わが國から印度に至る間のアジアの季節風帯に産し、この地帯の住民の主食に供されてゐる。國別では中國・印度・日本が三大生産國であるが、三國共人口が多いので、輸出能力がなく、かへつて人口に比べて生産高の多い印度支那半島から輸入を仰ぐことになるのである。

アジアの季節風帯に於ける各平野では、米作を中心とする農業が行なはれ、山間の傾斜地にも到るところ階段状の水田が開かれてゐて、この地域の特種な耕作景を示してゐる。

麥類 麥類には小麥・大麥・ライ麥・燕麥等の種類があり、概して溫帯に適する作物である。中でも小麥

は特に重要で、歐米人の主食であるパンの原料として、その世界總生産高は米よりもいくらか多い。大陸別ではヨーロッパに最も多く産するが、人口が密で、消費量が大いなので、不足をつげ、北米・南米・濠洲等から多量に輸入されてゐる。

世界の主な小麥生産國は、ロシア・米國・カナダ・中國・印度等で、イタリヤ・フランス等がこれに次いでゐる。かやうに小麥は米とちがつて諸大陸に廣く栽培されてゐるのである。主要な小麥の輸出國としては、カナダ・アルゼンチン・米國・濠洲・ロシア等が挙げられ、輸入國は英國を第一とし、ベルギーなどがそれに次いでゐる。

大麥はロシア・ポーランド・中國・米國等、ライ麥はロシア・ポーランド等、燕麥はロシア・米國等に多く産する。これらの麥類は歐米の諸國では、主として家畜の飼料に供せられるが、大麥はビール原料ラ

イ麥は黒パンの原料ともなる。

甘藷・馬鈴薯 甘藷と馬鈴薯とは、穀物に次ぐ重要な人類の食糧であり、又アルコールの原料としても大切である。甘藷は暖地に適し、中國・日本・ジャワ等の東部アジアが主産地である。馬鈴薯は比較的冷涼な温帯に適し、主としてヨーロッパの東部及び中央部、特にロシア・ポーランド、もとのドイツなどに多産し、この地方では最も重要な副食物とされてゐる。

大豆 大豆は食糧及び肥料に使はれ、東部アジア、特に華北及び滿洲に多く産する。滿洲産の大豆とその製品は、従来わが國及びヨーロッパへ盛んに送り出されてゐた。

甘蔗・甜菜 砂糖の原料である甘蔗と甜菜のうち、甘蔗が雨の多い熱帯・亞熱帯の氣候に適するのに対して、甜菜は比較的冷涼な温帯地方に適してゐる。隨つて甘蔗糖は印度・ジャワ・臺灣・フィリピン等のアジア

界の大部分を占め、特にブラジルは世界の過半を産し、多量のコーヒーを米國及びヨーロッパへ輸出してゐる。アジアでは東印度諸島に多く産する。

綿 綿は衣服の原料として最も多く、且つ廣く使用されるものである。温暖な地方に適する産物で、米國が世界第一の生産高を示し、その南東部が主な生産地帯である。米國に次ぐ印度では、デカン高原が主産地となつてゐる。又ロシア・中國・ブラジル・エジプト等にも多く産する。

わが國では永い間、國內産の綿で自給してゐたが、近代の綿工業が勃興すると共に、良質で廉價な輸入綿を原料とするやうになつたので、國內の栽培は全く衰微した。わが國の原料綿は、主に米國と印度から供給された。米國と印度とは國內の消費量が大いにかかはらず、世界に於ける綿の二大輸出國となつてゐる。綿工業が盛んで、綿を生産しない英國・フランス

ヤの熱帯・亞熱帯地方と、キューバを中心とする西印度諸島の熱帯地方とが、世界の二大産地となつてゐる。一方甜菜糖は、ロシア・米國等に多い。たゞ世界生産高は甘蔗糖の方がいくらか多い。キューバ・ジャワ・フィリピン等の甘蔗糖は、米・英その他へ多量に輸出されるが、甜菜糖は生産國での消費が多いので、國際的取引は盛んでない。

茶・コーヒー 茶とコーヒーとは、人類の好む二大飲料である。茶の産地は米の主産地とほぼ一致し、その大部分がアジアの季節風帯にあつて、中國・印度・セーロン島・東印度諸島及びわが國がその主産地である。熱帯地方の茶は多く紅茶に製せられ、特に英國へ多量に送られ、温帯地方の茶は主に綠茶に製造され、國內消費のほか従来米國へ盛んに輸出された。

コーヒーは熱帯・亞熱帯の産物で、その世界總生産高は茶の約三倍にのぼる。主産地は南米・中米で、世

等は、専ら他からの供給によつてゐる。

養蠶業 養蠶業は氣候が温暖で、桑の栽培に適し、且つ農村の人口密度が大きい地方に發達し易い。わが國と中國とはこれらの條件を備へてゐるので、古來農家の副業として盛んに行なはれて來た。わが國では農家の約三分の一が養蠶業に従事し、農家にとつては、繭は重要な生産物となつてゐる。生絲の産額では、わが國が世界第一である。わが國に次ぐ養蠶國は中國で、この二國は世界でも特にその産額が多い。ヨーロッパではイタリアとフランスに養蠶業が行なはれる。

生絲の最大需要國は米國で、フランスがこれに次いでゐる。わが國の養蠶業が急速に發達したのは、米國への生絲の輸出が盛んとなつたためである。

わが國の農業 わが國に於ける農業は多くの國に於けると同様に、太古から國民の主な生業として行なは

れて来た。氣候や地味が農業に適する上、國民が永い間に亘つて、風土に應じた農業の經營に種々の工夫をこらした結果、國民生活の地盤として獨得の發達を上げたのである。

わが國の農業人口は全人口の約四十パーセント以上に達し、その割合は歐米諸國よりも高く、畜工業が發達した現在でも、農業がわが國産業の根幹をなすことには變りがない。けれども山地の多いわが國の耕地面積は全土の約十六パーセントに過ぎず、英國の二十三パーセント、米國の十八パーセントより低率である。

狭い耕地面積によつて稠密な人口を養つて來たわが國では、勢ひ、世界各國に比べ農家一戸當りの耕地面積が極めて小さく、隨つて稀れな集約農業が發達するに至つた。肥料の使用も諸外國に比して多いのであり、これらの事情によつて耕地面積に對する收穫量は世界で最も多い。アメリカやヨーロッパに於けるや

うに、見渡す限りの平坦な大農場で營まれる機械力や畜力を盛んに使用する大規模な農業は、わが國では見られない。かゝる大農法は、傾斜地の多い狭小な耕地を細かく區切つて耕作するわが國の農場には適せず、豊富な勞力によつて機械力や畜力を補つて來たのである。しかし、在來の耕作法は能率が低いので、近年は脱穀その他に小型の機械を使用して能率を高めてゐるが、今後は國土に適する農耕の機械化を圖らねばならない。

わが國の農業が米を中心とする食糧作物の生産に努力が集中されてゐることも、おのづから理會されるところで、これは又歐米諸國と相違する一つの特色である。家畜の飼育が盛んな歐米諸國では、概ね耕地の三割乃至四割を家畜の飼料作物や綠肥作物の栽培に當ててゐるが、これは肉類・乳製品を多量に食用に供する必要があるからであつて、穀物を主食とし、魚類を多

量にとるわが國とは大いに事情を異にする。

わが國の農産物の主なものは米を第一とし、小麥・大麥・甘藷・馬鈴薯・大豆・蔬菜・茶・煙草・果物・蘭等であるが、人口が多いので輸出されるものは極めて少く、大部分は國內で消費されてゐる。國民の主食糧である米の如きも、平年作では約六千五百萬石の生産高に對し、消費が約八千萬石に達するので、從來は朝鮮から約一千万石、臺灣から約五百萬石を入れてゐた。今後は國內に於ける大規模な未耕地の開墾や既耕地の土地改良を圖り、米の増收に努力せねばならぬ。

わが國は南北に長いので、東北日本と西南日本とでは、農作物の種類に可なりの相違が見られる。東北日本を主とするものには、大麥・馬鈴薯・甜菜・りんご・櫻桃等があり、西南日本を主とするものには、裸麥・甘藷・甘蔗・蜜柑・枇杷等がある。養蠶は北海道

では殆ど行なはれない。米は品種の改良を行なつて、北海道にも産するやうになつたが、夏、オホーツク海の高氣壓が優勢となり、氣温が低い年には、凶作となるのを免れない。

(二) 牧畜業

牧畜業は農業と同じく、廣く世界各地で行なはれてゐるが、廣大な草原があり、比較的乾燥した氣候の地域に最も盛んである。濠洲の中央平野、北米の中央平野及び西部高地、南米のアルゼンチン、中央アジア等は、この種の世界的な牧畜地域で、かゝる地方では、放牧又は遊牧の形で行なはれてゐる。これに對し、中國・印度・ヨーロッパ諸國等の人口密度の大きい地方の牧畜業は、大抵舍飼の形で行なはれてゐる。歐米の諸國では、住民の衣食が畜産物に頼るところが多く、飼料栽培の餘地もあるので、一般に牧畜業は盛んに行なはれ、わが國と比べると遙かに重要な産業であり、

農業は概して有畜農業として營まれてゐる。

世界的に最も重要な家畜は、羊・牛・豚及び馬である。

羊 羊は濠洲を第一とし、ロシア・米國・アルゼンチン・南阿聯邦・ニュージーランド等の順に多く、溫帯に於ける乾燥氣候の地方を主産地とする。羊は主に羊毛と肉とを提供するが、特に羊毛の衣服原料としての價值は綿に次ぐもので、人口の少い濠洲・アルゼンチン・ニュージーランド・南阿聯邦等は、世界的な羊毛輸出國である。

牛 牛は印度に最も多く、米國・ロシア・ブラジル・アルゼンチン等がこれに次いでゐる。牛は肉・皮革・乳及び乳製品を供給し、且つ耕作・運搬にも重要な役目を果すものである。牛肉はアルゼンチン・濠洲等から、乳製品は濠洲・ニュージーランドからヨーロッパへ、共に多量に輸出される。

國民の衣食が畜産物に頼ることの少かつたことなどに基づくものである。世界的に頭數の多いものは一つもないが、牛は西南日本、特に中國・九州に多く、馬は東北日本と九州、豚は京濱地方の周邊と南九州とに多い。羊は東北日本を主とするが、頭數は少く、わが國の毛織物工業の原料は、從來多く濠洲に仰いでゐた。養鶏は農家の副業として廣く行なはれ、特に濃尾平野に盛んである。

(三) 林 業

木材は建築用・家具用・燃料用等に使はれるばかりでなく、パルプの原料として近時その需要が急激に増加したので、世界各國共、森林の保護・育成に意を用ひてゐる。

世界に於ける大森林地帯は、歐亞大陸の北部から北米大陸の北部に亘る寒帯林と、南東アジア・アフリカ中部・南米アマゾン川流域等の熱帯林とである。前者

豚 豚は中國を第一とし、米國・ロシア・ブラジル等に多く、肉のほか利用價值が少くない。

馬 馬は以上の家畜に比べ世界頭數に於いて遙かに少く、且つ肉用としての利用は少いが、耕作用・交通用等の價值は甚だ大きい。ロシアに最も多く、米國・アルゼンチン・ブラジル・中國等がこれに次いでゐる。

これらの家畜のほか、アジアの季節風帶の熱帯・亞熱帶地方に於ける水牛、チベットのやく、南東アジアの象、アジア・アフリカの沙漠地方に於ける駱駝、南米アンデス山地のリヤマ、北極海沿岸地方の馴鹿等は、それぞれ地方的特色のある家畜である。

わが國の牧畜業 わが國は他の國に比べて、牧畜業は不振で、概ね農家の副業として營まれてゐるに過ぎない。それは廣い草地がなく、又氣候が濕潤であり、且つ耕地が狭くて飼料を栽培する餘地のないことや、

は概ね針葉樹からなり、後者には闊葉樹が多い。林業の盛んな國は、廣い針葉樹林のあるヨーロッパ北部の諸國とカナダ・米國とであつて、共に木材の産が多く、パルプ・製紙工業が盛んで、且つ多量に輸出される。

熱帯林はチーク・ラワン・鐵木等の有用材のほか、ゴム・コブラ・椰子油・樟腦・タンニン・規那等、種の産物を出し、特に南東アジアに於ける栽培ゴムの生産は、世界のゴムの大部分を供給してゐる。

わが國の林業 わが國は山地が多く、雨量も豊かであるから、森林面積は國土の半ば以上を占めてゐる。北海道には主に寒帯林、東北日本には溫帯林、西南日本には暖帯林があつて、樹木の種類に富んでゐる。

森林は水源を涵養し、風水害を緩和するなど、農業と密接な關係があるので、古くからその育成・保護を怠らなかつた。封建時代に於ける諸藩の林政には見る

べきものがあり、それらが今なほ所々に美林として残つてゐる。わが國獨得の木造建築が發達したのも、又國民が木材の美を鑑賞する趣味を有するものも、森林の國にふさわしいことである。

杉・檜・松・樅等の針葉樹は、用材としての産額が多く、各種の闊葉樹と共に伐り出されてゐる。交通の發達しない時代には、川を筏でくだされ、川口の港から船で各地へ送られたが、現在では伐木の盛んな地方では、森林鐵道も利用され、各地に製材業が興つてゐる。薪炭類は廣く各地で伐り出され、木炭の製造も盛んである。殊に最近では、都市その他に於ける需要が大いなので、生産も激増した。

北海道のとど松・えぞ松等は、わが國のバルブ材として重要で、苫小牧その他にバルブ・製紙工業を興してゐる。しかし、用材もバルブ原料も、共に需要が甚だ多いにもかゝはらず、森林面積の廣い割合に、木材

の搬出の困難なところが少くないので、國內産では不足してゐる状態で、海外からの輸入が必要である。

(四) 水産業

世界に於いて最も水産業の盛んな海洋は、太平洋の北部で、熱帶の海洋は一般に振るはず、南半球の温帶漁場はまだ十分開發されてゐない。わが國の近海、ヨーロッパの北海を中心とした漁場及び北米のニューファンドランド島の近海は、世界の三大漁場と稱せられてゐる。遠淺で廣い陸棚のあることと、寒暖二流の會合することが好漁場をつくる主な原因となる。わが國の近海では寒海性の魚族も暖海性の魚族も多く、北海及びその附近では、寒海性の鰵・鰈等、ニョーフランド近海では鰹が最も多い。

わが國の水産業 わが國はこれまで世界漁獲高の約四割にのぼる漁獲高をもつてゐた。近海に寒流と暖流とが流れてゐるので、北海道沿岸では寒海性の鰵・鰈

鰹・鰯・昆布等、本州その他では、暖海性の鰹・鰈・鰵・鰹・いか・ぶり・てんぐさ等がとれ、漁獲物の種類に富むことも世界にその比を見ない。水産養殖も、各地の干潟や淺海又は河湖を利用して盛んに行なはれてゐる。東京灣の海苔・あさり、廣島灣のかき、紀伊半島南東岸の眞珠、濱名湖附近のうなぎ等の養殖や、長野縣の水田養鰻等はよく知られてゐる。

水産の加工に於いても、わが國は最も發達してゐて、鰹節、するめ、かまぼこ等の獨得な製品があり、罐詰・乾物類は、從來多額の輸出が行なはれてゐた。なほ最近では水産物利用の化學製品も研究され、水産物の用途は益々増大する傾向を示してゐる。

わが國では漁業は農業と共に太古から營まれ、四周の海洋は國民にとつて、國土と同じく生活の舞臺とされて來た。漁業者の数が世界の過半を占めてゐることは、このことをよく物語つてゐて、水産物がわが國の

一大資源であることは昔も今も變らない。獸肉が食用として重要である諸外國とちがつて、わが國民は水産物によつて、蛋白質を取るもので、日常生活の上で魚介類を重く見てゐる。随つて種々の水産物に對する國民の好み、その調理法などに獨得の發達を示してゐる。海水から得られる鹽の製造は、わが國では、殆ど瀬戸内海沿岸に限られてゐた。人口が多いため、食用鹽にも不足するので、最近各地で製鹽業が獎勵されてゐるが、更に工業鹽の増加を考へると、將來多量の鹽を海外から輸入せねばならない。

(五) 鑛業

地下に埋藏されてゐる有用鑛物を採掘し、これを精鍊するのが鑛業である。鑛物の埋藏は地質の如何に深い關係があり、地質の複雑な山地に鑛山のある場合が多い。しかし鑛業を行なふには多くの資本と技術を要し、又輸送の便不便も關係するので、埋藏量の多いこ

とと鑛業の發達とは必ずしも一致しない。

鐵は機械の製造、土木・建築等の材料として最も廣く使用されるもので、その世界生産に於いても全金屬生産高の九十五パーセントの大量を占める。鐵鑛を最も多く産する國は米國で、ロシア・フランス・スウェーデン・英國等がこれに次ぐが、鐵の精鍊高は、米國・ロシア・英國・フランス・ベルギー等の順である。

石炭は工業の原動力、交通機關の燃料、化學工業の原料などとして、その利用價值は極めて高く、世界の工業地帯は炭田地帯とは一致してゐるほどである。世界に於ける生産高は、米國を第一とし、英國・ロシア・フランス等がこれに次いでゐる。

石油は特に交通機關の燃料としてすぐれた特色をもち、國別では米國が世界の約六割を出し、なほロシア・ペネズエラ・イラン・蘭領東印度等にも多く産する。

狩・常磐等の主な炭田があつて、世界的にも相當な地位を有してゐる。石油は古くから越後の産物として知られてゐたが、今日主な油田としては、越後油田と秋田油田が知られてゐるに過ぎない。

銅は近年までその産額に於いて世界に重きをなし、多量の輸出さへ行なはれてゐた。金と銀とは大抵銅に伴なつて産し、兩者共わが國は世界的に見て産額の多い國である。

その他アルミニウム・マグネシウム・錫・ニッケル・マンガン・クロム・タングステン・モリブデン等は、いづれもわが國に乏しい鑛産物である。たゞ山地が多いため、石材は比較的豊富で、各地で種々のものが採掘されてゐる。

(六) 工業

農業・牧畜業・林業・水産業・鑛業から得られた諸産物に加工して、生活に有用な物資を生産するのが工

このほか金は南阿聯邦・ロシア・カナダ・米國等に、銀はメキシコ・米國・カナダ・ベルギー等に、銅は米國・カナダ・チリ等に多く産する。近時、航空機の發達と共に、とみに重要性を増した輕金屬のアルミニウムは、その精鍊高に於いて、米國・カナダ・ロシア・フランス等が主である。建築材料としての各種の石材も世界の各地で採掘されてゐる。

わが國の鑛業 わが國は地質が複雑なため鑛産物の種類と産地とに富んでゐるが、一般にその産額の少いうらみがある。金・銀・銅は、既に上代から採掘されて、美術工藝品・裝飾品や、錢貨をつくるのに用ひられ、又砂鐵利用の武器・農具も製作された。明治維新後、金屬の需要が増大するに伴なつて、鑛物の採掘法や精鍊法も急速に發達した。

わが國の鑛産物中、現在産額の最も多いのは石炭で筑豊・三池・肥前等の北九州の諸炭田を第一とし、石

業である。工業は文化の進歩に伴なつて發達し、昔は簡易な器具を用ひて小規模に行なふに過ぎなかつたものが、十八世紀に至り、機械による製作がはじめられてから急速にその規模が大きくなり、近代の大工業が興つた。大工業が發達するためには、氣候の良好なところ、石炭・石油・水力電氣等の動力源や工業原料が得易いこと、人口が多く勞力の得易いこと、交通の便利なことなどが必要であるが、なほ資本が豊富で、住民の科學的技能が優秀でなければならぬ。世界の大工業地帯はヨーロッパの中部・西部と北米の北東部とにあるが、これらの地方はいづれも工業發達に必要な條件の大部分を具備してゐるところである。

ヨーロッパの中部・西部に於いて工業の最も盛んなところは、英國・フランス・ベルギー・オランダ等にある地方で、この地方に多い石炭と鐵鑛とを利用して製鐵業が發達してゐる。又、綿・羊毛等を原料とする

纖維工業も盛んで、原料を他の大陸から仰ぎ、綿絲・綿織物・毛絲・毛織物等の大量生産を行なひ、これを世界の各地へ輸出してゐる。このほか金屬工業・機械器具工業・化學工業・食料品工業・製紙・造船等の大工業も營まれてゐる。なほスイス・イタリヤ・スウェーデン等の石炭に乏しい國では、水力をよく利用して、各種の工業を興してゐる。

北米の大工業地帯は、米國のニューヨークを中心とする地方から五大湖附近に亘るもので、ヨーロッパの工業地帯と共に世界の二大工業地帯をなしてゐる。原料を國內に仰ぐことの多い點では、米國の工業地帯の方が恵まれてゐる。この地方は石炭・石油・水力等の動力が豊富であり、鐵礦その他の原料の産も亦極めて大きいので、製鐵・機械・自動車・航空機・兵器等の製造・造船・製紙・罐詰製造等の諸工業が盛大で、いづれも大量生産が行なはれてゐる。この二大工業地帯

のほか、近時、ロシアにも所々に重要な工業地帯が興つて來た。日本も近年工業の發達が著しく、印度や中國にも局部的に近代工業の勃興を見るに至つた。

わが國の工業 わが國には古くから手工業が發達し、各種の絹織物・綿織物・麻織物・陶磁器・漆器・刀剣・和紙等に獨得な製品を出した。明治維新後、短期間に近代的工業が勃興したが、中でも綿絲紡績や綿織物の工業は大規模に發達した。又生絲・絹織物工業の發達は世界的であり、人造絹絲・人絹織物・ステールファイバー等の工業も、戦前に於いて、短年月の間に世界屈指の産額を示すやうになつた。これらの輕工業のほか、近時は重工業や化學工業等に於いても、先進國の長所をとり、獨自の工夫をこらし、目覺ましい發展を遂げてゐた。

わが國の工業は大工場によるもののほか、中小工場で行なはれるものが、他の工業國に比べて多い點に一

つの特色がある。

工業の發展に伴つて、工業人口も著しく増加し、現在では農業人口に次ぐ人口を有し、その率は國民の約二割に達し、世界の工業國に於ける率に接近して來た。

わが國の工場は、人口の密な交通の便利な京濱・名古屋・阪神・北九州の四大工業地帯に集中してゐるが、これ以外にも工場の適地は到るところにあるので、最近では次第に各地方への分散が見られるやうになつた。

(七) 商 業

各種の生産業が發達し、交通機關が進歩するに伴つて商業は次第に盛んとなり、商業都市が各地に興り取引の範圍もひろまつて、國內ばかりでなく、國際間の取引、すなはち貿易が行なはれるやうになり、世界的な大商業都市が成長した。自國の需要に餘る産物を

外國へ輸出し、自國に不足するか、或は全然缺けてゐる産物を外國から輸入する國際貿易は、現代の文化國にとつて、國民生活上必要缺くことのできないものとなつてゐる。

工業のあまり發達してゐない國で、工業原料品や食糧品を國內の需要以上に生産する場合、これを外國へ輸出する。工業の盛んな國では多くは、諸外國或は自國の植民地から原料品を輸入し、これに加工し、製造品として外國或は植民地へ輸出する。印度・滿洲・南阿聯邦・アルゼンチン等は前者の例で、主に工業原料品や食糧品を輸出し、製造品を輸入してゐる。英國・ベルギー等のやうな工業國は後者の例で、原料品・食糧品を輸入し、製造品を輸出する。

これに對し、米國は工業原料品の産出が多く、中には多量に諸外國へ輸出するものさへあるほどで、一方又大規模な各種の近代的大工業が發達してゐるので、

原料國であると同時に工業國ともなつてゐる。ロシアは國內産の原料を使つて大工業を興してゐるが、製品は國內消費が多いので貿易はあまり盛んでない。最近に於ける貿易額の最も多い國は英・米の二國で、フランス・カナダ・ベルギー等がこれに次いでゐた。

わが國の貿易 わが國の貿易は、明治維新後、次第に發達し、世界經濟の變動の影響によつて、時には盛んになつたり衰へたりしたが、その貿易額は漸次増加して來た。從來の主な輸入品は、綿・羊毛・鐵・石油等の原料品で、主な輸出品は、綿織物・生絲・人絹織物・機械類等の製造品であつた。原料品を入れ、製造品を出してゐたのが、わが國貿易の特色であつた。

これらの貿易品の大部分は、神戸・横濱・大阪の三大貿易港で取扱はれてゐた。

山地・濕地・沙漠・熱帶多雨地方・寒帶地方等では、發達が遅い。

道路は陸上の交通路として最も古くから利用されたものであるが、鐵道交通の發達によつて、道路交通は一時衰へた。しかし近年自動車が発達したため、再び重要性を増大し、歐米の文化國では、鋪裝された自動車専用道路が次第に建設されるやうになり、特に世界の自動車總數の約七割を有する米國では、それが著しい。わが國に於いても重要道路は着々改修され、乗合自動車も普及して來たが、歐米諸國の道路に比べるとなほ改善の餘地が多い。

鐵道は現代に於ける陸上交通の首位を占めるものである。汽車が實用に供せられてからはまだ百餘年に過ぎないが、迅速で且つ大量輸送に適するので急速な發達を遂げた。世界の鐵道總延長は、今や百三十萬キロに餘り、單に平野ばかりでなく、大山脈・大河川等も

七 交 通

人類が互に往來・通信し、或は貨物を輸送すること交通である。交通機關は時代と共に進歩したが、特に最近に於ける發達は著しく、これがため地球上の距離は時間的に甚しく短縮された。交通の發達した地方は文化の高いことを示し、さうでない地方は文化の低いことを物語つてゐる。

交通は普通、陸上・水上・航空の各交通と、通信とに分れる。これらの交通は、地勢・海洋・氣候等の影響を受けるが、文化の高い地方では、自然の障礙を除いて、その發達が圖られてゐる。

(一) 陸 上 交 通

陸上の交通路には、道路・鐵道等がある。共に地勢や氣候により大きな影響を受ける。一般に平野で氣候の良好なところには、道路網や鐵道網が密に發達し、

トンネルや鐵橋で横切り、市街地には高架鐵道・地下鐵道も敷設され、その速力・設備も次第に改良されて、人類生活の能率を著しく向上させてゐる。

各大陸中、鐵道網の最も密なのはヨーロッパで、北米がこれに次ぎ、その他の大陸は全體として遙かに疎である。ヨーロッパでは西部及び中部、北米では米國の東半部が最も密で、兩地方共世界の大工業地帯とはば一致してゐる。國別ではベルギーが最も密で、スイス・英國・オランダ等がこれに次いでゐる。

鐵道の總延長に於いて、米國は世界の約三割を占めて、遙かに他の諸國を凌いでゐる。世界的に重要な鐵道は大陸横斷鐵道で、歐亞大陸にはシベリヤ鐵道が一線あるばかりであるが、北米大陸ではそれが十數線にも達してゐる。

わが國の鐵道 わが國の鐵道は明治五年、東京・横濱間の開通を最初として、その後盛んに建設が進めら

れ、今や國內各地に通じて、その總延長は二萬キロ以上に達した。しかしなほヨーロッパの文化國に及ばず且つ狭軌であるため、輸送力の小さく、缺陷がある。

これは一つにはわが國の地勢の影響にもよるのである。一方、電車の發達も著しく、各地の主要都市及び近郊に多く敷設されてゐる。特に大阪を中心とする近畿地方、東京を中心とする關東地方の電車網は甚だ密である。

(二) 水上交通

水上交通には、河川、湖沼、運河等の内陸水路の交通と、海洋に於ける海上交通との別がある。陸上交通に比べて、速力の遅いうらみはあるが、半面には運賃がやすくて、大量の貨物を運ぶことのできる長所がある。

河川の交通は鐵道の發達によつて一般に衰へたが、ヨーロッパでは今なほ、貨物の輸送路として重要である。

ロツパ南米航路等である。

世界の主な海運國は英國を第一とし、米國これに次ぎ、ノルウェー・フランス・オランダ等も亦有力である。

世界の海上交通は多く東西の方向に通じてゐるが、大陸が南北にのびてゐるので、航路を短縮するために地峽を利用して運河が切り開かれた。スエズ・パナマの兩大運河がそれで、世界の海上交通路の距離を著しく短縮したことに、大きな意義を認められる。

わが國の水上交通 わが國の河川は、鐵道開通前には、利根・信濃・最上・淀・筑後等の諸川が、地方的に重要な交通路として利用されてゐたが、地勢の關係から長大なものがなく、且つ急流をなすものが多いので、現在では交通路としての價値は極めて小さい。湖沼の交通も琵琶湖のみがやゝ利用されてゐるに過ぎず、運河には見るべきものがない。海上交通は、江戸時代

り、ライン・ドナウ・ボルガ等の諸川は極めて盛んである。又中國の揚子江や北米のセントローレンス川・ミシシッピ川等もよく利用されてゐる。湖上交通は普通、地方的な意義しかもたないが、北米の五大湖はその沿岸に産業が發達してゐるので、船舶の航行が極めて多い。運河の交通は特にヨーロッパに於いて役立っている。

海上交通は水上交通のうちで最も重要で、世界の貿易は大部分これによつて行なはれてゐる。昔は概ね沿岸交通に過ぎなかつたが、新大陸が發見されて次第に大洋航行が盛んとなり、その後汽船が利用されるに至つて、急速の發達を遂げ、現在のやうな海洋航行時代を現した。現在交通の最も頻繁な航路は、北大西洋の航路で、世界に於ける商工業の二大中心であるヨーロッパの西岸と、北米の東岸とを結ぶものである。これに次ぐものは、地中海東洋航路・北太平洋航路・ヨ

に沿岸航路が或る程度開けてゐたが、明治以後、非常な進歩をした。

(三) 航空交通

最も新しく出現した航空機による航空交通は、第一次世界大戰後急速に發達したものである。速力が極めて大きく、地勢の障礙を他の交通機關のやうに受けないう特色を遺憾なく發揮して、交通上に新しい時代をつくつた。しかし輸送能力が小さいため、現在は人及び郵便物の輸送を主としてゐる。

航空交通は米國に最もよく發達し、ロシア・英國・フランス等のヨーロッパの諸國がこれに次いでゐる。これらの諸國では國內ばかりでなく、本國と植民地との長距離連絡に航空機を利用し、今次の大戦前に大西洋・太平洋の横斷航空路も開かれた。航空交通の將來は更に一大躍進が見られるであらう。

(四) 通信

通信機關の主體をなす郵便・電信・電話は、今では國際的な事業となり、世界の未開地を除けば、全世界に通信できるやうになつてゐる。郵便物は汽車・自動車・汽船等で輸送され、又最近では航空機も利用されてゐる。

電信は有線と無線との別があつて各大陸に普及し、大陸相互間や大陸と主要島嶼間には海底電線が敷設され、無線電信と並んで通信網を張つてゐる。海底電線の最も多い海洋は北大西洋で、海上交通の最も盛んなところと一致してゐる。

電話にも有線と無線との二種類があり、有線電話はもちろんのこと、無線電話も既に廣く實用に供せられてゐる。ラジオも米國を第一として次第に普及し、文化の傳達に大きな力となつた。

わが國は明治維新後、これらの通信機關が急速に進歩した。

に區別される。

アジア人種は蒙古人種ともいはれ、又その皮膚が概ね黄色であるため、黄色人種とも稱せられてゐる。その数は約七億で、世界總人口の約三割を占め、主として南部及び南西部を除くアジアの大部分に住み、一部はヨーロッパにも分布してゐる。大和民族・朝鮮民族・漢民族・滿洲民族・蒙古民族・チベット民族・印度支那民族・トルコ民族・フィン民族・マジヤール民族等がこれに屬してゐる。漢民族は東洋文化の開発者で、數千年前に文化を開いてゐた。

ヨーロッパ人種はユーラフリカ人種・コーカシヤ人種とも呼ばれ、又その皮膚が一般に白色であるため白色人種とも稱せられてゐる。その数は約十億で、世界總人口の約半ばを占めてゐる。この人種はもと主としてヨーロッパに住み、ヨーロッパ以外では、印度以西のアジアの南西部からアフリカの北部に亙る地方に居

八 住 民

世界の人類は、現在その數二十二億に達し、それが多くの人種・民族に分れてゐる。各人種・民族には、人口に多い少いがあり、その使用する言語も多種多様であつて、その信仰する宗教にも種類が多い。人種・民族と言語及び宗教とは密接な關係はあるが、必ずしも同一の人種・民族が同じ言語を話し、同じ宗教を信ずるものではない。

(一) 人 種

世界の人類はもと同一の源から出たやうであるが、久しい年月を経る間に、その居住地の氣候・地勢及び衣食住等の影響をかうむつて、特有の體格・顔形・皮膚の色、言語・風俗・習慣・氣質等をもつやうになつた。便宜上、主として體質の特徴によつて、世界の人類は、アジア人種・ヨーロッパ人種・アフリカ人種等

住するに過ぎなかつたが、新大陸發見時代から盛んに世界の各地に移住し、今では南北兩米・濠洲・南アフリカ等の主要部の殆ど全部に亙つてひろがつてゐる。ヨーロッパ人種はチュートン民族・ラテン民族・スラブ民族・印度民族・イラン民族・アラビヤ民族・エジプト民族・ユダヤ民族等、多くの民族に分れてゐる。これらのうち、印度・メソポタミヤ・エジプト・ギリシヤ等に住んでゐたものは、早くから文化が開け、今日の西洋文化の源となつたものもある。現在ではチュートン・スラブ・ラテンの三民族が、世界的に最も高い文化を有してゐる。

アフリカ人種は、概してその皮膚が黒色であるため、黒色人種の名がある。その数は約一億五千萬で、アフリカのサハラ沙漠以南と米國の南東部に住んでゐる。

以上の三人種のほか、マレー半島・マレー諸島に住

びマレー人種や、アメリカの原住民で、南北兩アメリカ大陸の所々に住んでゐるアメリカ人種などがある。

わが國の住民はアジア人種に屬する大和民族で、ほかに北海道に少數のアイヌ人が居住してゐる。

(二) 人 口

各大陸に於ける人口の分布状態は、地域的に基だしい疎密の相違がある。世界で人口密度の最も大きい地方は、ヨーロッパの温帯地方と、アジアの季節風帶及び米國の北東部で、これらの地域だけで世界總人口の約六分の五を占めてゐる。

人口密度が地域的に著しく異なるのは、氣候・地勢・交通・文化等の相違に基づくものである。氣候からいへば、一般に温帯地方に最も大きく、熱帯地方がこれに次ぎ、寒帯地方が最も小さい。又多雨地方は概して大きく、寡雨地方はこれに反する。地勢では一般に

平野が最大で、丘陵地・高原がこれに次ぎ、山地が最小である。しかし、熱帯地方では平野よりも高原がへつて人口の密なところが少くない。かうして雨量の多い温帯地方の平野が、人口の最も密な地域となつてゐる。

産業からいへば、商工業地域が最も密で、農業地域がこれに次ぎ、林業地域や牧畜地域は稀薄である。又交通及び文化の發達程度が、人口密度の大小と密接な關係をもつてゐる。アジアの季節風帶に於ける米作を中心とする農業地域は、世界の農業地域中、人口が最も密なところで、歐米に於ける人口の密な地域が都市人口の多いことによるのとは、その性質を異にしてゐる。

世界の人口は、最近では毎年約二千萬人の増加があり、その増加率には、國によつて相當の相違がある。ロシアやバルカン諸國が増加率の高いのは、これらの

國の出生人口が死亡人口よりも遙かに多いためで、新大陸の諸國が概して高いのは、ヨーロッパからの移住者の多いことによるのである。ヨーロッパの文化國は、最近ではロシアを除くと人口増加率が一般に低下し、特にフランスは人口が殆ど増加せず、かへつて減少を示すほどである。又未開人は概ね人口が減少して行く傾向がある。

わが國の人口 わが國の人口は約七千五百萬であり、人口の密な地方は、關東平野から濃尾平野、近畿の諸平野を含み、瀬戸内海の沿岸を経て北九州に至る間、あまり密でない地方は、本州・四國・九州の山地の地方のほかは北海道である。

わが國の人口増加は近年極めて大きく、明治維新後七十年間に三倍以上となつた。

(三) 言 語

言語は各民族固有のものがあるが、同一民族の間に

も、中國のやうに地方的な多くの方言があつて、互に意志の通じない場合もある。各國はそれ／＼獨自の標準的國語をもつてゐるが、スイスやベルギーのやうに、數種の言語が國語として並び行なはれてゐる國もある。

現在世界に於いて最も廣く行なはれてゐる言語は英語であり、英・米兩國及び兩國の植民地で用ひられ、又商業上の用語としても世界的に普及してゐる。フランス語は本國のほか、ベルギー・スイス等にも行なはれ、又外交用語としてよく利用される。イスパニヤ語は、かつてポルトガルの植民地であつたブラジル以外のラテンアメリカ諸國に廣く行なはれてゐる。使用者の数は多いが、主に自國人のみに行なはれてゐる言語は、中國語・印度語・ロシア語等である。

(四) 宗 教

世界には多くの宗教が行なはれてゐるが、中でもキ

リスト教・佛教・マホメット教は、世界の三大宗教といはれ、いづれもアジアに發源したものである。キリスト教は千九百餘年前、パレスタインに起つた。主にヨーロッパ人の間に信ぜられ、廣く世界に普及し、信者数が最も多い。舊教・新教・ギリシャ教の三大宗派に分れてゐる。

佛教は二千四百餘年前、印度に起つたものであるが、現在は印度には殆ど行なはれず、印度支那・中國・日本等にひろがり、信者数はキリスト教徒に次いで多い。マホメット教は、又回教ともいはれ、約千三百年前アラビヤに起り、アジアの南西部からアフリカの北部に亙る乾燥地域にひろがり、更に印度及びマレー諸島にも及んでゐる。そのほか印度に於いて最も多數の信者を有する印度教、ユダヤ民族の信するユダヤ教等があり、又チベットや蒙古等には佛教の一派であるラマ教、中國には道教や儒教等が行なはれてゐる。

わが國では信仰の自由が認められ、種々の宗教があるが、佛教の信徒が大部分で、一部に神道・キリスト教等を信する者もある。

九 聚 落

人類は社會的生活を営むために、相集つて居住し、各地に聚落をつくつてゐる。その聚落の小さいものを村落といひ、大きいものを都市と呼んでゐる。

(一) 村 落

村落は人類の居住地域には到るところに見られ、その住民は農業を主とするものが最も多い。しかし場所によつては、林業・漁業・牧畜等を兼ね行なふものもあり、又これらを主業としてゐるものもある。世界的には農村が最も廣く分布してゐるが、山地には林業にたづさはる山村があり、漁業の盛んな沿岸地方には漁村が發達し、乾燥地域などには、牧畜を主とする村落

が見られる。わが國には各地に農村・山村・漁村が存在するが、牧畜を主業とするものは殆どない。

村落の形は、その住民の主業やその場所の地形などによつていろいろの相違があり、又地方的な風習、或は民族的な傳統によつても種々なものが生じてゐる。家屋が散在してゐる散村、家屋の密集してゐる集村、道路に沿つて帶狀にのびてゐる街村とは、村落の代表的な形である。

散村は概して山地や牧畜地域に多いが、平野の農村に於いても新しい開拓地や干拓地などにはよく見られるものである。集村は最も普通な村落の形で、概して農村や漁村に多く、特に磯濱の海岸で、居住地が地理的に制限されてゐる漁村では、都市のやうに人家の密集してゐるものが多い。街村は道路交通の盛んな地方、又は昔盛んであつた地方の農村や漁村に多く分布してゐる。

村落は通常、日當りがよく、飲料水の得易いところに位置するが、又自然的な災害の危険が少く、外敵を防ぐにも便利で、交通にも恵まれてゐるところが選ばれる。しかし、かやうな諸條件をすべて備へてゐるところは少いので、地方によつてそれらの諸條件のうち不利な點を、種々な施設によつて補つてゐる。

河岸・濕地・山麓・谷の出口等に位置する村落や、扇狀地・段丘・三角洲・砂丘等の上にある村落には、それらの特色があり、山地に於いても、山頂の小平坦地にある村落と、山腹の緩やかな傾斜地にある村落とは趣がちがつてゐる。

(二) 都 市

都市は人口が多く、多數の家屋が比較的狭い地域に密集してゐて、住民は商工業・交通業・公務自由業等の職業に従事するものが多い。又都市は一國・一地方の經濟・交通・文化の中心地となつてゐる。一般に商

工業の盛んな地方には、都市が集つてゐる。農業・牧畜業・林業・水産業を主とする地方に村落の多いのと相對してゐる。

都市は概ね村落の自然に發達したものであるが、種の人爲的な設備が施されてから生じたものもあり、又これら双方の原因によつてできたものもある。

都市のできるには種々の原因がある。先づ地方的市場を中心として發達する都市がある。市場はその地方の經濟生活の中心地として住民に必要な物資を供給し、その地方の生産品を集散するところであるから、自然に人家が集合して都市となるのである。かやうな都市の發達したものが大商業都市となる。次に交通も亦、都市發達の重要な原因となる。交通路の起點・終點・集中點・中繼地など、交通上の要地にはいづれも都市が生じ易く、大河の本流と支流との合流點及び渡し場、峠の麓、沙漠の入口、或は水陸連絡の要地であ

る港などには都市が發達し易い。又工業も都市の發達と密接な關係があつて、工業の盛んになつたため勃興した都市は甚だ多い。

このほか、政治・宗教・學術等の中心地や、鑛山・溫泉・名勝・保養地等にも、都市の發達する場合がある。多くの都市は、これらの原因の幾つかが重なつて生じたものであるが、特に大都市はさうである。

わが國の主要都市は、大部分封建時代に諸侯が居住した城下町が、その後地方廳の所在地となり、或は商業の中心地となり、或は又陸上・海上の交通の要地となつて更に發達を遂げたものである。

都市の形は、自然のまゝの發達の姿を示してゐる場合が多いが、一定の計畫に基づいて設計されたものもある。東京・ロンドン等は、一部分は計畫によつてつくられたものであるが、大部分は自然に發達したものであるから、全體的に見ると、街路の排列が不規則で

ある。これに反し、ワシントン・モハキー・パリ・カンペラ・大連等では、街路が或る地點を中心として、それから放射狀に出てをり、京都・札幌・北京及びニューヨーク・シカゴ等の米國の都市の多くは、街路が規則正しく直交してゐる。不規則な街路は種々な不便があるが、市區改正を行ふ必要があり、わが國でも都市計畫が各地に行なはれてゐる。

都市は發達するに伴つて外方にひろがり、その面積を擴大するのが普通であるが、世界的な大都市では市街地の中心部に高層建築がつくれ、上に向かつてのびる特色が見られる。ニューヨークはその最も著しい例である。

大都市は人口の大集團地であるから、住民の保健と生活の便を圖るために、上水道・下水道・交通機關・照明・公園・廣場等の各種の施設を整へ、且つ市域を大體商業地域・工業地域・住宅地域・風致美觀地域等

に分ち、更に近郊に、都市と農村との特徴を兼ね備へた田園都市をつくる傾向が生じて來た。

都市の人口は、時代の進むに伴つて増大する傾向があり、最近ではそれが益々甚だしくなつた。これに對し、村落の人口は漸減する傾向にある。これを人口の都市集中と呼んでゐるが、現在では殆ど世界的の現象で、わが國も亦この例にもれない。交通の發達、商業の發展、都市に各種の文化施設のあることなどが、この傾向を生ぜしめた主な理由であるが、しかし都市の無制限な膨張には種々の弊害が認められるので、文化國ではこの傾向を抑へる手段も講ぜられてゐる。工場の方散を圖つてゐることなどはその一つの現れである。

(をばり)

K150.2-1

昭和二十一年八月十三日 印刷印刷
昭和二十一年九月三十日 印刷發行
(昭和二十一年八月十三日 文部省認可)

高等科地理下(第二學年用第二分冊)
定價 金六拾錢

著作權所有 發行所 文 部 省

Approved by Ministry
of Education
(Date Aug. 13 1946)

東京都王子區堀船町一丁目八五七番地
印刷發行 東京書籍株式會社
代表者 井上源之丞
印刷所 東京都王子區堀船町一丁目八五七番地
東京書籍株式會社

發行所 東京都王子區堀船町一丁目八五七番地
東京書籍株式會社